

2012年4月16日

## 緑内障治療薬用医薬原体タフルプロストの製造能力を増強 ～メルク社の米国内販売承認取得などによる今後の販売数量増大に対応～

**AGC** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、当社子会社のAGC若狭化学株式会社（以下、AGC若狭化学）の小浜工場において、約8億円を投じて緑内障治療薬用医薬原体タフルプロストの製造ラインを増設することを決定しました。増設するラインの稼働は2013年3月頃の予定であり、増設後の同製品の製造能力は現行のほぼ2倍となります。

日本を含む様々な国で失明原因の上位に位置する緑内障の患者数は、世界でおよそ6000万人にもおよぶと言われていています。さらに、今後も高齢人口の増加などにより、患者数は増えていくものと見られ、緑内障治療薬の需要も拡大していくことが予想されます。

当社は、緑内障治療薬用の医薬原体であるタフルプロストを参天製薬株式会社（以下、参天製薬）と共同で開発し、2008年に上市された参天製薬の緑内障治療薬向けに供給しています。タフルプロストは、当社独自のフッ素化学と有機合成技術を融合した医薬原体であり、緑内障の主因とされる眼圧を下降させる効果を発揮するなど優れた特長を持っています。

同製品が使用された緑内障治療薬は、現在、参天製薬およびメルク社<sup>注</sup>（本社：米国ニュージャージー州）により、日本を始め欧州・アジアなど世界36カ国で販売されています。さらに、今年2月にはタフルプロストを使用したメルク社の緑内障治療薬が米国において販売承認されるなど、今後も販売エリア及び数量は一段と拡大していく見通しです。

当社はこれまでタフルプロストを千葉工場で生産しておりましたが、今後の需要拡大に備え、AGC若狭化学に製造ラインを増設し、製造能力を現行のほぼ2倍に高めることとしました。また、増設される製造ラインは、主原料からの一貫生産が可能であり、生産性の大幅な向上が見込めます。

AGCグループは、長年培ったフッ素化学技術を活かし、差別化された製品を提供することで、医薬品・農薬中間体・原体の分野における多様なニーズに応じていきます。

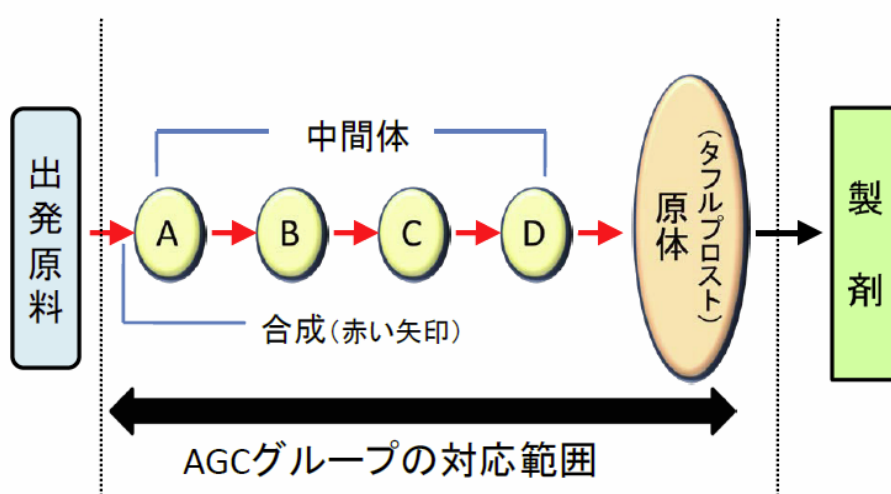
以上

注：Merck & Co., Inc.

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子(株) 広報・IR室長 上田 敏裕  
(担当：杉山 TEL: 03-3218-5603、E-mail: [info-pr@agc.com](mailto:info-pr@agc.com))

<ご参考>

1. 当社グループのタフルプロスト製造拠点  
AGC千葉工場、AGC若狭化学小浜工場【今回新設】
2. 医薬原体の合成フロー図



### 3. AGC若狭化学株式会社の概要

- (1) 社名 AGC若狭化学株式会社
- (2) 所在地 福井県小浜市
- (3) 資本金 9000万円
- (4) 出資比率 AGC 100%
- (5) 設立 1998年
- (6) 事業内容 医農薬中間体・原体等、ファインケミカル製品の製造・販売
- (7) 従業員数 60人(2012年3月31日現在)